



どんど焼きも、もうすぐ

年頭にあたって

若穂自治協会長 □ □ □ □

あけましておめでとうございます。皆さん一人ひとり、心新たにスタートされたことと思います。

昨年を振り返って、あの3月31日の屋代線最終日。暗いホームで提灯に小さな灯りをともし、「さようならーさようならー」と涙を流しながら見送ったあの寂しさは、忘れることのできない思い出として心の奥底に残っていることと思います。

その後若穂自治協では、跡地の活用について論議を重ね、廃止で落ち込むことなく、より地域が活性化するよう市に働きかけてきました。市は、線路跡をサイクリングロードと遊歩道にと示し、すでに撤去が始まりました。まだ駅舎跡の活用に向けて課題は残されていますが、多くの皆さんの知恵を生かしていただき、さらに努力を重ねていかねばと思っています。

若穂自治協は本格稼働して今年は4年目を迎えます。この間、区長会をはじめ3つの委員会、4つの協議会を設け夫々活動してきましたが、まだまだ不十分なところがあります。少しずつではありますが、地域の皆さんに理解されてきたことと思います。

また「ふれあい踊り」「文化祭」「市民運動会」、さらには初めての「ながのとびっくラン in わかほ」などに取り組み、大きな成果を収めることができました。とりわけ「とびっくラン」は、出場者900人でしたが、ボランティアも450人が参加して大会を支えていただけたことは、まさに若穂の力そのものを表したものだと思います。

これからは更に、高齢化が進む現状をしっかりと見つめ、誰でもがこの地に生まれて、そして暮らせることができ良かったと思える、若い人が住みたいと思える地域づくりをしていかねばなりません。また、自然を生かし、外から人が求めて来られるような若穂を築いていかねばと思います。

皆さまにとりましてより良い年でありますよう、心からご祈念申し上げます。

市内初の食肉流通

長野市の若穂保科高岡に市内では初めてイノシシなど野生鳥獣の肉を流通させる食肉加工施設が年度内に完成する。施設を運営するのは20日発足予定の「若穂シヒ工振興会」で、市は建設の補助金として12月定例会市会に提出する一般会計補正予算案に1450万2千円を計上した。

建設補助金1450万円
関心高まり背景



捕獲したイノシシは現在、山で解体して自家消費されるか、土に埋められている。地元から野生鳥獣の流通のための食肉加工施設開設などの要望があり、当初は若穂地区内の別の施設を改装する計画だったが、住民の反対があり高岡に新築することにした。同振興会は、若穂地区有書鳥獣対策協議会や若穂猟友会、若穂地区住民自治協議会、農協の関係団体などで構成する。

(長野市民新聞)

《12月の執行会議では・・・》 新年度の「予算編成方針」や「事務局体制」「組織の見直し」などを論議しました。事務局員と地域福祉ワーカーについては新たに公募する予定で、詳細については次号でお知らせします。設立から5年を経過した若穂自治協の組織・役員体制についても、検討機関を設けて見直しをおこなうことになりました。



すごいぞ□□君！
吟詠コンクールで
全国大会に出場★

若穂中学1年生の□□□□君(綿内)は、全国吟詠コンクール「少年の部」で県大会、中部地区大会と1位に輝き、9月に東京で開催された決勝大会に出場しました。変声期の影響もあって惜しくも入賞は逃しましたが、小学5年生の時には「幼年の部」で全国2位の実力者。自治協の表彰規定に基づき、□□会長から支援金を贈りその活躍を讃えました。

乗合タクシーの見直し／バス停増設へ

市の交通政策課が検討している来年度からの乗合タクシー路線の見直しについて、若穂は基本的に受け入れるもの ①山新田地区へのデマンド運行継続 ②川田小学校、領家、立岩医院前、大橋(島)へのバス停増設—を要望し、いずれも受け入れられました。しかし、利用者が少なければ2年後には再見直しされる可能性がありますので、皆さん大いに利用促進をお願いします。地域の「公共交通」を守りましょう。

架線撤去始まる／川田駅構内除く

廃止された屋代線の架線やレールなどを、長野電鉄が順次撤去しています。来年9月末の完了予定です。なお、『屋代線メモリアルパーク』として現況を保存する川田駅構内は除かれています。



沿線3市の健闘では、線路敷地は自転車や遊歩道などの「道路系」として利用する方向です。川田、綿内の駅舎や構内については、地域のために活用されるよう具体的な提案をしていきます。

保科の荒廃農地／ハナモモで緩衝帯

場所は須釜地区の山あい、地権者の了解のもとに「長野市やまざと支援交付金」を適用して、保科地区区長会などが約200メートルにわたってハナモモを植えました。野生動物との緩衝帯になるとともに新たな「花の名所」としても期待されています。

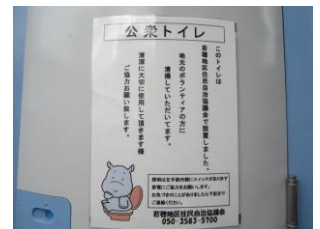
川田駅・綿内駅に簡易公衆トイレ

＝来秋まで、自治協が設置して管理＝

■4月から、保科温泉線に加えて新たに3つのバス路線が開設された若穂地区。かつての川田駅、綿内駅は「バスの待合所」として活用されていますが、問題の一つが古くて、汚いトイレ…。自治協が市と交渉した結果、来秋には水洗式の公衆トイレを市が設置することになっています。

■が、トイレは今日明日も切実！一日も早い対応が必要ですから、その間は、自治協が独自に簡易トイレをレンタルすることとし、11月末までに両駅に設置しました。

■また、清掃管理にはアトリエCOCO(川田駅)、公文塾綿内教室(綿内駅)のご協力をいただくことができました。地域が力をあわせて実現できたトイレです。いつでも気持ち良く利用できるように、皆さんの心遣いをお願いします。



【左上】綿内駅に設置したトイレ【右上】「清潔に大切に使用して…」の表示【左】破損した屋根が改修された綿内駅の自転車置き場(長電が施工)

ちょっとお耳に

◇お隣の大豆島にある市の清掃センター。毎年、環境美化委員会が施設見学を続けているが、なくてはならない施設。◇焼却炉は稼働から30年の長寿。新施設はサンマリンがある西隣に広域で建設する。が、課題は地元同意。◇一方、篠ノ井小松原にある市の埋立地。今年度で満了。須坂市に計画する広域埋立地はまだ難航中…。当面は県外に搬出か。◇ごみの処理は、法的に市町村の責任。若穂のごみ収集は長野市と合併してから。それ以前は自家処理。篠ノ井や松代は当時、焼却炉があつて自前処理。◇総論賛成各論反対になりがちなの種の施設。計画はあつてもなかなか進まない…。清潔で快適な生活も処理施設があつてこそ。受け入れ地元の皆さんへは、感謝の気持ちを持ちたい。(二)